

ふりがな 学校名	いしのみましりついでしのおましようがっこう 石巻市立石巻小学校
-------------	------------------------------------

校長名： 福原 俊幸

電話番号： 0225 (22) 4565

I 学校の概要

1 学校・地域の特徴

本校の学区内には、市役所をはじめ裁判所、法務局などの官公庁や出先機関があり、行政の中心地になっている。また、本校も、130年以上の歴史をもち、地域の人々に支えられながら、市内の中心校として歴史と伝統を重んじた教育活動に取り組んできています。現在は、新たな形で伝統を築く「温故創新」を学校経営の基本姿勢に掲げ、児童や保護者・地域の人々にとって、本当に必要なこと・大事にしていきたいことを再生する努力を重ねている。

2 学校の概要（平成20年5月1日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14
児童数	44	51	49	46	50	49	2	291

II 研究の内容及び成果等

1 研究主題

(1) 研究主題

我が国の伝統文化を尊重する児童を育てる教育課程の編成

－「かしわタイム」を中心とした体験活動を通して－

(2) 研究のねらい

本校独自の特設時間「かしわタイム」を中心として、教育活動全体を通して、伝統文化とかかわらせた実践を行っていく。様々な機会をとらえ、多様な体験活動に継続的に取り組ませていくことにより、伝統文化のよさに気づき、伝統文化を尊重する児童を育てることをねらいとしている。

2 本年度における研究の取組概要等

(1) 取組の概要

「かしわタイム」においては、和室の活用を図りながら、「礼儀作法」「百人一首」「年中行事」「石小伝承踊り『だるま』」「茶道」「折り紙・風呂敷」の6つの領域の実践研究を行った。

また、「総合的な学習の時間」の中で、伝統文化と関連させた活動（20時間）を行うとともに、「各教科、道徳、特別活動」の中からも、各学年ごとに重点単元を選び、伝統文化と関連させた指導を行った。

クラブ活動では、今年度も「伝統文化」「武道」「囲碁」の3つのクラブを設定し、活動を

行った。日常指導として、古典等の暗唱にも継続的に取り組ませた。

(2) 教育課程上の位置付け

- ・かしわタイム（各学年10時間）
- ・総合的な学習の時間（各学年20時間）
- ・伝統文化と関連させた単元（各学年「各教科、道徳、特別活動」の中から一単元抽出）
- ・「朝の会」「帰りの会」を活用した、暗唱等の「日常指導」や、「クラブ活動」（伝統文化クラブ・囲碁クラブ・武道クラブ）

(3) 指導の実際

① 領域：かしわタイム 礼儀作法（5年）

② 活動名：ふすまの開け方・閉め方

活動の最初と最後には、呼吸法を取り入れた黙想を行い、心身を落ち着かせた状態で学習に取り組ませた。

ふすまを三手で開けたり閉めたりする「型」の指導では、全体やグループで練習した後、チェックカードを活用して相互評価をさせた。チェックカードを活用することでポイントを確認しながら見合うことができ、お互いによい点を認め合ったり励まし合ったりする姿も多く見られた。また、



「ふすまの開け方・閉め方」の練習をしている児童の様子

「型」について説明するとき、動きの一つ一つに込められた意味も考えさせることで、「型」と「心」の一体化を図るようにした。

3 成果と課題

○ 「かしわタイム」においては、各領域で身に付けさせる内容と必要な時数を明確にして指導してきたことにより、発達段階に応じた礼儀作法を身に付けさせたり、伝統文化に関する多様な体験をさせたりすることができた。

○ 礼儀作法の指導においては、「型」の指導を通して「心」も育てていくことが大切であると考えている。しかし、「型」の部分については目に見える形で成果を感じることができが、「心」の部分の評価は難しい。今後も、児童の感想や活動の姿の記録を日々蓄積していくとともに、本校の伝統文化教育が、児童の将来においてきっと役に立つと信じて、実践を継続していきたい。

Ⅲ 指導事例

宮城県

石巻市立石巻小学校

教科等	特設時間	学年	5	単元名	かしわタイム
単元のねらい	体験活動を通して、我が国の伝統文化や地域に根ざす伝統文化への関心を深め、それらを大切にしようとする態度を育てるとともに、日常生活に伝統文化を生かそうとする意欲を高める。				
取り扱う伝統文化	「礼儀作法」「百人一首」「石小伝承踊り『だるま』」「風呂敷」「茶道」				
◇単元の概要 「かしわタイム」は、教育課程を編成する上で「伝統文化教育」を推進する目的で学校独自に生み出した時間である。また、各学年で年間10時間を設定し、各教科・領域・総合的な学習の時間などで実施される本校の伝統文化教育の中心的な時間として位置付けている。内容は「礼儀作法」「百人一首」「年中行事」「石小伝承踊り『だるま』」「茶道」「折り紙・風呂敷」の6領域で、学年の発達段階を考慮して目標や学習内容を設定している。					
◇単元の指導計画（全10時間）					
期	主な学習内容、学習活動等			教師の指導・支援、取組体制（外部人材の活用等含む）等	
3	<礼儀作法> 坐礼・ふすまの作法を中心とした日本の伝統的な礼儀作法や、心身安定のための技を学ぶ。 ①坐礼の仕方を再確認し、様々な場所におけるお辞儀の仕方を学ぶ。 ②方向の換え方や膝行・膝退の仕方を覚える。 ③ふすまの開け方・閉め方を学ぶ。			・時と場に応じた坐礼の仕方を、具体的な場を設定して指導する。 ・美しい正坐の仕方を確認する。 ・どのような場合が相手に失礼に当たるかを具体的に指導する。 ・ふすまの作法は部屋の中にいる人への心遣いであることを指導する。	
3	<百人一首> 基本のルールに慣れ、歌の意味や作者に興味をもって百人一首を楽しむ ①百人一首の歴史について知る。 ②1字決まりや2字決まりの札を知り、得意札を増やす。 ③ルールを確認し、試合を楽しむ。			・5色百人一首（緑札）を使用する。 ・担任が読み手となり、上の句を1回、下の句を2回読む。また、20枚中17枚を読み終わった段階で取り札の多い方を勝ちとする。 ・札の覚え方を説明し、得意札を作らせる。 ・百人一首一覧を教室に掲示したり、印刷した歌を配布したりし、個人の興味に応じて練習できるようにする。	
1	<石小伝承踊り『だるま』> ①石小に伝わる伝承歌「だるま」の歌詞の内容をとらえながら美しい形で力強く踊る。			・指先などの細かい動きにも気を付けながら、美しい形で力強く踊るようにさせる。 ・石小の伝統を引き継ぐことの責任を自覚して取り組むようにさせる。 ・たてわり班の下学期のお世話をしっかり行わせる。	
1	<風呂敷> ①大きさや形に応じて様々な包むことができる風呂敷のよさに触れ、伝統的な風呂敷の包み方や、実用的な包み方に慣れ親しむ。			・素材や大きさの異なる風呂敷を準備しておき、用途に応じて使い分ける必要があることを知らせる。 ・中のものの形に合わせて包むことのできる風呂敷のよさについて触れ、「巻き包み」や「びん包み」を練習させる。	
2	<茶道> 茶道の歴史に触れ、茶道におけるいろいろな作法を体験し、生活に生かす。 ①茶道の歴史に触れ、基本的な作法を知る。 ②菓子の出し方やいただき方を知る。 ③お茶の点て方といただき方を知る。			・茶道には400年以上の歴史があることや千利休が大成したこと、「おもてなしの心」や「心の通い合い」があることについて知らせる。 ・和室においては、礼儀作法で学習してきた作法を生かして活動させる。 ・絵カードを用いて、一つ一つの動きを確認しながら練習に取り組ませる。	
◇本事例による成果と課題					
・「かしわタイム」における礼儀作法の指導を日常指導と連携させて行うことで、和室での立ち居振る舞いが美しくなってきた。また、学習した様々な礼儀作法を学校や家庭で生かそうとする児童が多くなってきた。 ・「百人一首」や日常指導における「古文等の暗唱」を通して、美しい日本のことばや日本語のリズムに触れることができた。言語に対するみずみずしい感性を育てる上でも効果があった。 ・「石小伝承踊り『だるま』」を取り入れたことにより、自分たちの学校の伝統を大切にしていこうとする気持ちが高まった。また、たてわり班ごとの活動を通して、異学年児童の交流も図られた。 ・本校の「かしわタイム」の指導において、担任の指導の拠り所となっているのは、「石巻小学校礼儀作法指南書」である。今後も、必要な内容を追加したり、児童の実態に合わせて内容を修正したりしながら、さらに充実したものにしていきたい。					